

事務事業名	脱炭素社会構築推進事業	所属部	市民環境部	所属課	環境政策課
政策名	〈Ⅱ〉安全・安心で快適なまち《定住環境》	所属G	環境政策グループ	課長名	金山 雄児
施策名	〈10〉環境の保全・創造	担当者名	松蔭 佳子	電話番号	0854-40-1033
目的	対 象 市民	意 図	地域環境を守り、地球環境に配慮した生活をおくる。	(内線)	2125
基本事業	〈031〉温室効果ガス削減の推進	予算科目	0:1 2 0:0:1 大事業名 環境保全事業	0:5 4 5 0:7 中事業名 脱炭素社会構築推進事業	
目的	対 象 市民	意 図	温室効果ガスの排出量を削減する。		

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
市民・事業者・行政	2050年までに脱炭素社会の実現をめざす

③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)

事業期間	市民・事業者・行政等関係者がお互いに学びあい協力連携を図りながら、持続可能な地球環境を未来に引き継ぐため、2050年を目標に脱炭素社会実現に向けた様々な取組みにチャレンジし、成果を上げる。
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (R4 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	

④ 主な活動

R5年度実績(R5年度に行った主な活動)

・部局横断による全庁体制での取り組み
 ・雲南市脱炭素社会実現計画の策定(R6.3月)
 ・環境フォーラム、環境会議の開催
 ・ごみの減量化の取組み(勉強会とキエーロコンポストづくり)
 (キエーロコンポストの普及 R4:90基、R5:130基)

⑤ これまでの改革・改善経緯

(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)

市報、HP、ケーブルテレビの特集番組作成など、継続した市民への情報発信による環境意識の啓発。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	R6年度 (計画)
ア エネルギー使用量:市長部局	KL	3,690	3,602	取りまとめ中	3,500
イ エネルギー使用量:教育委員会	KL	1,194	1,304	取りまとめ中	1,000
ウ 環境フォーラム等参加者数(延べ人数)	人		766	740	500
エ 環境啓発連携団体	団体		25	26	20

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R5年度決算)	② コストの推移	単位	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(計画)
報償費 144千円	国庫支出金	千円			14,489	45,000
旅費 366千円	県支出金	千円				300
需用費 161千円	地方債	千円				
委託料 20,401千円	その他	千円	6	9,255	6,637	3,582
使用料 54千円 合計 21,126千円	一般財源	千円				
その他:地域振興基金、政策選択基金	事業費計	千円	6	9,255	21,126	48,882

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	<ul style="list-style-type: none"> ・部局横断による全庁体制で取り組みを行った ・雲南市脱炭素社会実現計画を策定した(R6.3月) ・市民、事業者と一緒に環境に関する会議や各種取り組みを実施し、環境意識の向上に繋がった
② 事業実施するうえでの課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市民、事業者、行政がー丸となって脱炭素に取り組む機運の醸成 ・市民や事業者が主体的に取り組めるよう、サポート体制等の仕組みづくりが必要 ・市民の環境意識の向上、行動変容
③ 課題解決に向けた改革改善等	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や事業者のニーズを把握 ・脱炭素に関する学習会等を開催し、意識の醸成を図る ・雲南市脱炭素社会実現計画に基づく各種施策の実施